



写真2 板貝の海岸 (撮影：藤本幸雄氏)



写真1 白神山地

地震がつくった白神山地

江戸時代(1704年)に発生した岩館地震と、その時できた十二湖のお話は前回いたしました。その時起きた事は、十二湖ができたことだけではありません。海岸が突然高くなってしまったのです。

昭和の始めころ、東京大学に今村明恒(いまむらあきつね・1870-1948)という教授がいました。古文書の研究から関東に大きな地震が来る可能性があると警告を発した人物としてたいへん有名な方です(私もたいへん尊敬しています)。警告の18年後、本当地震が起こり、大災害を引き起こしました。これが関東大震災です。

この大学者が1935年に八峰町にやってきました。もちろん、岩館地震について調査するためです。今村教授は十二湖のき方についても研究論文を書きましたが、海岸の高さの変化についても論文を書いていました。

岩館では、海岸の岩の1.5mから2mくらいの高さのところに波の力で削られた所があります。ここは岩館地震の起こる前は、海面すれすれにあり海の水に削られていた場所です。それが地震後には、土地全体が高くなって今では1.5mから2mくらいの高さのところにあります。もちろん海岸だけではなく内陸もそのように高くなっていますので、白神山地も当然高くなっています。実は白神山地はこのように地震のたびに少しずつ高くなり、何十万年もかけて今のような標高の高い山地になったのです。

では、どうして地震があると土地が高くなるのです

よう？岩館では、海岸のすぐ沖合に地震を起こす元の活断層があると考えられています。この活断層が何メートルかずれる時に地震がおこります。断層がずれ動きますと、山側が高くなります。このようなわけで地震が起こると海岸にそのあとが残るといわけです。

高くなった山はだんだん崩れて行きます。そして土砂をふもとにむかって流しだします。そうやってできた新鮮な土砂にはカルシウムやリンなど植物の生育に必要な成分がたくさん含まれています。

日本列島はどこでもこのような山を作る作用(隆起)がさかんです。日本列島の土地が豊かで農業に向いているのは日本に地震が多いからなのです。

地震というと「災害」など悪いことしか思い出さなにかも知れませんが、でも、日本は地震(そして火山)があるからこそ、農業が盛んでたくさんの方が暮らしているのです。地震は必ずしも人間にとって悪いことばかりではないということがわかりますね。

山形大学の八木教授によると、白神山地西側の海岸が高くなる速度は平均すると1,000年間に1.3メートルにもなります。これは、本州島では最大トップクラスの速度です。白神山地の盛り上がり方は本州で一番速いと言えそうです。

秋田大学教育文化学部教授 林 信太郎

八峰白神ジオパーク推進協議会

〒0182612

秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116

TEL 0185-78-2427 旧岩館小学校内